

郡
報

第參拾四號

目次

●報告欄

- 一、大正五年度利根郡簡閱點呼參會人員表
- 一、通俗教育揭示資料（十二、十二、一月分）
- 一、大正五年八月中完結有期報告遲速成績表

●論說欄

- 一、まつりのことを
- 一、肺結核の話

七 一

五 一

郡報

第參拾四號

報 告 欄

十月



○大正五年度利根郡簡閱點呼參會人員表

兵種	役種別	沼利白	片川池	薄古	水桃	新川	久系	赤城	計	遲參者
科目	田南澤	品	協	田根	牧上	野治	田保	瀨根		
歸休	卒	三	三	一	二	五	三	七	四	五
步	下士	二	八	九	五	二	五	一	〇	二
豫備	卒	二	八	九	五	二	五	一	〇	二
后	下士	二	二	一	一	二	一	三	一	一
兵	卒	三	七	二	四	三	二	九	一	一
補	下士	一	〇	四	四	六	三	四	一	〇
充	卒	一	〇	四	四	六	三	四	一	〇

備考

外ニ

所在不明者	拾四名
無故不參者	七名
疾病不參者	拾名
在監中ノモノ	壹名

◎通俗教育揭示資料

◎コレラの話

(十一月一日)

コレラの病原を發見したのは細菌學者のローベルト、コッホ氏である、今より約三十年前コレラ大流行の時に、埃及、印度でコレラ患者の糞便腸壁及び流行地の池水中で一種の曲つたコマ狀の細菌を發見し、是かコレラの病原であることを確めたのである。此の菌が人の体中に入つて數時間又は一兩日たつと、愈病狀を現はすのである。其病狀は、初めは稀薄な便を多量に瀉泄する、多くは腹鳴はあるが痛はない、便通が頻繁で後には「米のしろ水」の様な物を下す、次で嘔吐を催す、此の吐物も初めは胃の内容物であるが、後には「しろ水」様の物となる、斯様に体内の水分がどんどん消失されるので皮膚に皺がよる、脈は細くなり、手足は冷え口唇や爪は紫色となり、尿は減じ、のどがかわき聲はかれる。此症狀が強くと大抵は助からぬが、幸にしてこの時を切り抜けると恢復期に入つて助かる。

つぎにコレラ流行時の個人豫防法を簡單に記す

(十一月四日)

一、牛飲馬食を戒め規則正しい生活をするのである、よしやコレラ菌に侵されても重症にならない様に身体の防衛力に餘裕を貯へ置くことである、

二、飲食物は煮沸したものを攝り、食器は一旦煮た水で洗ふことである。

三、蠅は病毒傳搬者で、危険であるから、飲食物及食器には蠅の止まらぬ様にするこゝと總てを清潔にして蠅の繁殖を絶つ様にしなければならぬ。

四、酒類は適宜飲用し度を過ぎぬ様にする、又平常慣れぬ食物は取らぬ方がよろしい。

五、多人數の入る便所には注意して入らぬ様にする、芝居、寄席、縁日、祭禮等大勢群集する所へはあまり立寄りぬこと、又かゝる場所では飲食せぬこと。

六、胃腸に障害ある時は速に醫師に診せて、相當の手當をし、又嘔吐下痢を催した時は、隠蔽したり姑息の手當をするのは甚危険であるから、醫師に診せて、相當の手當をすることである。

七、衣服特に下着は乾燥したものを着ること。

八、鹽酸は一萬倍位でもコレラ菌を死滅せしむる能力があるから流行時には食後數滴宛の稀鹽酸を飲料に滴下して飲むのも豫防法の一つである。

○殺菌力のある食物とない食物

(十一月七日)

左に各飲食物の虎疫菌に對する強弱表を示して見る。

一、殺菌力強き物

○日本酒 即時 ○梅干 一分 ○味噌漬 五分 ○酢酒鹽砂糖の混液 五分 ○葡萄 五

分 ○澤庵 十分 ○菜糖味噌漬 三十分 ○奈良漬 三十分 ○ジャム 三十分 ○攝

氏四十二度の湯 三十分 ○羊羹 一時間 ○醬油林檎蜜柑各一時間 昆布佃煮 五時間 ○カ

ステーラ 三時間 ○カノコ餅 五時間 ○菜鹽漬 六時間 ○無花果 十時間 ○最中の

餡 十時間 ○味噌汁 十二時間 ○酢の物 二十四時間

二、殺菌力弱き物

○豆餅の表面 四十八時間 ○餡餅の餡 四十八時間 ○豆腐の煮え 四十八時間 ○牛蒡の

煮え 三日以内 ○柿の切口 四十八時間

三、殺菌力なき物

○梨子 ○生牛乳 ○生豆腐 ○煮たる牛乳 ○米飯 ○刺身 ○生牛肉 ○牛豚肉 ○生鶏肉 ○

海水飲用水 (教材集録による)

○祝 月

(十一月十日)

一年、十二月を通して、別に悪い月といふのは無いか取別けて十一月といふ月は昔から祝月といつて大層目出度い月である従つて、今上陛下が御即位の大典を挙げさせられたのも昨年の今月十日であるし今月行はせられた立太子の典儀も今月三日と定められた譯である。

天高く氣すみ黄菊白菊様々に氣品高き粧を凝して咲き匂へる今日此頃七五三の祝に母親の心をくだ

いた晴の衣裳を着飾つて土産神詣の十五日か夢見る乙女子の心はいかに楽しい事であらう何としても十一月といふ月は目出度い月である。

○人 營 兵 士

(十一月十三日)

各町村にて次の事項を調査揭示するものとす。

- 一、自町村より入營する兵士の氏名
- 一、所属部隊名及び兵種
- 一、出發の期日

○主要交戦列國の兵力と戦費

(十一月十八日)

國名	現出征 兵力	喪失 兵力	二箇年ノ 總戦費	國民一人 ノ負擔
露國	二八〇万	五〇〇万	一三七億	九〇圓
獨國	三四二万	二九三万	一九三億	三二〇圓
佛國	二五〇万	一七八万	一一七億	四四〇圓
奧國	一四二万	三〇五万	八八億	二四〇圓
伊國	八四万	四〇万	五二億	一〇三圓

英國 一八〇万

五八万

一七四億

四四四圓

(大戰と列國による)

○新 嘗 祭

(十一月二十二日)

十一月二十三日、天皇陛下當年の新穀を天神地祇にお供へあらせられ、又御親らも御食しあがりになる御祭りであります。府縣では知事を官國の幣社に遣はされ幣帛を奉りて祭祀を修めしめられます。此の祭は最も國家の重典で、御歴代の天皇が斯く天祖の御恩德に報ひ奉り益々國家人民の安寧をはからせ給ふために行はせらるゝ大祭でありますから我等臣民は各其仕事に精を盡し勤むるところを努め常に皇恩の万に報ひ奉る心掛を持たねばなりません。

○全國皆兵に關する詔勅

(十一月二十八日)

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ壯丁ヲ募リ軍國ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始メテ分レ途ニ封建ノ治ヲナス戊辰ノ一變ハ實ニ千有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ當リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜ヲ制セサルヘカラス今本邦古昔ノ制ニ基キ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立ント欲ス汝百官有司厚ク朕カ意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

○水栽みづたがらし栽培法
野菜

(明治五年十一月二十八日御煥發)
(十二月三日)

ミヅタガラシの適地は清水の流れる浅い小川が最も宜しい。又乾田にも作ることも出来る、乾田に作るには灌水のよき所を撰み、土壤を十分耕して人糞尿を打ちかけ、又は油粕の粉末を鋤き込み一二日を経て水をかけ、馬糞の如きもので平に掻きならし、二三寸位の深さに水を張り、是に植付生着するを待ちて清水を灌ぎ流すのである。栽植の時期は春は四月秋は九十月頃が宜しい。種で蒔くより二三寸位のびた時株分をなし、植付けるのかよろしい若し生育中虫害を蒙りたる時は水を止め莖葉が沈むまで水を深く湛へ一二日間浸水しておき後水を落せばよい、收穫は夏と冬の二期に適宜間引き漸次抜き取るのです。

調理法

酢味噌和 ○サラダ ○白あへ ○三杯酢 ○胡麻酢台 ○生食

○反 省

稲は刈られて、こなされて、俵に入れられて、土間に積み上げられて、五月以来の骨折の結果を示して居る、農家の反省する時は今なり、

勤勞足らざることなかりしか

作物の性質によく従ひて耕作法を施せしか

陽氣まかせの成績にてはなかりしか

是等の点に不十分の事があるならば、俵の数の少きとて徒らにくどくをやめて、來年の仕方を工夫するか肝要なり「農業とは勤勞の力を以て自然に打ち勝つ仕事なり」此の趣意に添ひしか添はざりしかを、本年の成績に照らし合はせて徐に來年の努力と研究とをなすへし。

○襟 ま き

(十二月十三日)

冬時感冒にかゝりやすいのは、皮膚が弱くつて、寒さに抵抗する力が少いからである。されはどて無暗に皮膚を大切がつて、襟巻などで首のあたりを包んで居るものが、急に之を取ると、寒さにふれて弱い皮膚が直に風の神に魅らるへきは理の當然である。故に襟巻は初めより用ひぬくせを作る方が必要である。子供を躰ける上に殊に注意すべきことである。

○睡 眠

睡眠は夜十二時前が最もよく、此等の一時間のねむりは、夜明け方又日中の四時間のねむりに等しい効力がある、此熟睡の最も深い夜の十二時前か、俗に寝入ばなどいふて、大抵の音位には眼がさめぬのである。正しき生理的の睡眠は、疲勞を慰し、憂苦を和らげ、新らしき精力と勇氣とを得て、事に當る準備となるので、衛生上最も大切である。隨て熟睡の度の深い程効能が多い。正しく十二時前に寝て熟睡すれば、さういつまでも眠られるものでない、餘り長く眠れば、却つて心もからだもぼんやりする、子供の睡眠時は此處に注意して、正しく十二時前に熟睡させて朝早く起す習慣を作るのかた

めになる。

○米一升の平均値

(十二月十八日)

明治二十六年	九錢九厘六毛	明治三十八年	拾七錢六厘
明治二十七年	拾七錢八厘	明治三十九年	貳拾錢四厘
明治二十八年	拾壹錢九厘	明治四十年	二十二錢三厘
明治二十九年	拾貳錢八厘	明治四十一年	二十錢三厘
明治三十年	拾五錢九厘	明治四十二年	拾七錢六厘
明治三十一年	拾九錢三厘	明治四十三年	拾六錢五厘
明治三十二年	拾貳錢九厘	明治四十四年	二十二錢八厘
明治三十三年	拾六錢貳厘	大正元年	二十五錢五厘
明治三十四年	拾六錢六厘	大正二年	二十七錢五厘
明治三十五年	拾七錢九厘	大正三年	二十四錢九厘
明治三十六年	拾九錢四厘	大正四年	十七錢二厘
明治三十七年	拾八錢參厘		

○今日と明日

(十二月廿二日)

「今日」の觀念は人をして寸陰を惜ましめ。「明日」の觀念は人をして希望の光を仰かしむ。寸陰を惜む人は空虚なき一日一日を送り。希望の光を仰ぐ人は現實の些事に醒醒することなし。空虚なき生活は充實せる生活にして希望ある生活は餘裕ある生活なり。人は充實せる生活を營むによりて始めて其日暮しの中にも永遠の意味を味ひ得べく。餘裕ある生活を營むによりて始めて向上發展の道を得へきなり。

○農間の利用

(十二月二十七日)

北の方の山には、もはや白いものが見える。やかて里にも來るてあらふ、農家は是から閑になる、此の閑は何として送つたらよからう、

「小人閑居すれば不善をなす」何しろ閑なき様にするか肝要である、「一年中に用ふる縄と草鞋は此の間に造つて置くの覺悟て居てほしい、青年男女の修養は、亦此の間の大切な仕事である。」

○四方拜と元始祭

(十二月三十日)

四方拜は一月一日で宮中に於ては、天皇陛下御親ら祭服を召させられ、伊勢大神宮を始め、四方の神々を御遙拜遊ばさるゝ御儀式であります。元始祭は一月三日で此日、天皇陛下は、賢所皇靈殿八神殿を祭られます。

天皇陛下には期の如く年の始めから、御儀をあげて、我等臣民の爲めに災をはらひ、國の榮えを祈

らせらるゝのでありますから、我等國民は此のありがたき、大御心に對し奉り、年の新たなると共に奉公の至誠を致し、陛下と共に謹んで此の式祭を行はねばなりません。

●實行

(大正六年一月五日)

各町村に於ける村治の方針又は實行を期する實業上の事又は徳義上の事を揭示するものとす。

●和歌三種

(二月七日)

うつりゆく始めもはしも白雲の

あやしきものは心なりけり。

歳端先つわが心を觀よ、而してこれを正しうせよ。

天地のしらはいかに高くとも

すめる心にかよはさらめや。

(大西 祝)

努めて怠らすんば終に天地と同化して能く三昧の境に入るを得ん。修養するかな。

世の中を何のへちまと思へども

ぶらりとしては暮されもせず。

(太田南畝)

常に鍛錬を磨き馬に秣かふことを忘るゝ勿れ。

●歐洲戦争と國債

(一月十日)

本年八月一日現在の歐洲各交戦國の國債及戦費は左の如しといふ。

(單位百万圓)

國名	戦前	本年八月一日現在	比較増加	二年間戦費	一日平均戦費
英國	六、九七〇	三〇、二二二	二二、二四二	二二、三八〇	五〇
佛國	一三、二一四	二九、九三二	一六、七一八	一八、〇〇〇	三四
露國	九、〇七四	二〇、七二六	一一、六五二	一七、五四〇	三六
伊國	五、六七二	八、六〇二	二、九三〇	五、〇〇〇	一六
其他	一	一	一	三、一六〇	八
計	三四、九三〇	八九、四七二	五四、五四二	六六、〇六〇	一四四
獨國	一〇、三九六	二八、五八二	一八、一八六	二二、〇〇〇	四四
奧國	七、九四〇	一三、五一五	五、五七五	一〇、七二〇	二四
土耳其	一、二八〇	一、七〇八	四二八	一、六〇〇	三
計	一九、六一六	四三、八〇五	二四、一八九	三三、九二〇	七一
合計	五四、五四六	一三三、二七七	七八、七三一	九九、七八〇	二二五

●煙草の話

(一月十四日)

煙草と云へば世上で随分害を知つて禁煙のことを喧しく云ひ未成年者喫煙禁止法さへ行はれて居る。それでも我國で一ヶ年間に消費さるゝ量は随分多く年々專賣局の買入れる葉煙草は日本産のものゝみでも千二百萬貫と云へば随分驚くではないか。

今專賣局が大正四年度で製造した統計を掲ぐれば次の通りである。

○刻煙草 はさが三百五十萬貫て一番多く水府及薩摩の三千貫か少く全体で七百萬貫

○口付紙巻煙草 敷島の四十億本か多く國華の千七百萬本か最少く計六十二億本

○兩切 バットの十四億本か一番多くナイルの五十萬本か一番少く皆で十七億四千萬本
この外葉巻か七種で八十萬本出来る實にたいしたものではないか。

○人 生 の 樂

(一月十八日)

何はなくとも和合はたから

和合するはご家は富む

和合の徳を實行せんと欲せば忍耐の徳を修養するを要す、三千年前佛陀の曰く忍の徳たる持戒苦行も及ぶこと能はず、能く忍ぶ者を名けて大人とすと又英勇ナポレオン曰く最後の勝利は能く忍ぶ者に歸すと、是又千古の卓見ならずや、要するに以上の教訓は吾人處世上の羅針盤にして内に此修養なくんば外に和合の美德を顯示して齊家治國の要道を全うすることは至難の事なり。故に吾人は常に忠孝

友和信を經とし堅忍和合の徳を緯として所謂富國強兵たることを心掛くるこそが肝要なり。是れ吾人か處世上の要道であると同時に國恩に報い奉ることの一端なるべし。

國にや鐵砲家には女房

はんに困つた貧乏神

○汗 の 話

(一月廿一日)

汗は、人の皮膚に汗線といふ細い管があつて、それから、体内の水分や其外不用の物を排泄されるものである、汗の出る場合は、一、外氣の温度の高まつた時、二、血液中の水分がました時、三、筋肉の労働したとき、四、發汗劑を飲た時の四種に分けられる、斯様のわけで、夏は普通健康体の人は自然に多く出る、又出るだけ出すのが健康に適ふ所以である、風を引くと内部に血が滯る故外部に血を廻すため汗を出す工風をするのか効能がある。何れにしても汗が出るのは人体に必要である。しかし盜汗即「ねあせ」は不自然の原因によるから防がねばならぬが、其外には多く汗の出る様に筋肉を働かせることが最も必要である。但し汗は脂肪と混じて汚物となり一部は著物に着くが残りの体について居るものは外から來る微菌を繁殖せしめて、皮膚本來の作用を害して、皮膚病又は濕疹を起すから、折々入浴して皮膚の清潔を保つのか衛生に適ふわけである。

○普通願届の期限

(一月廿五日)

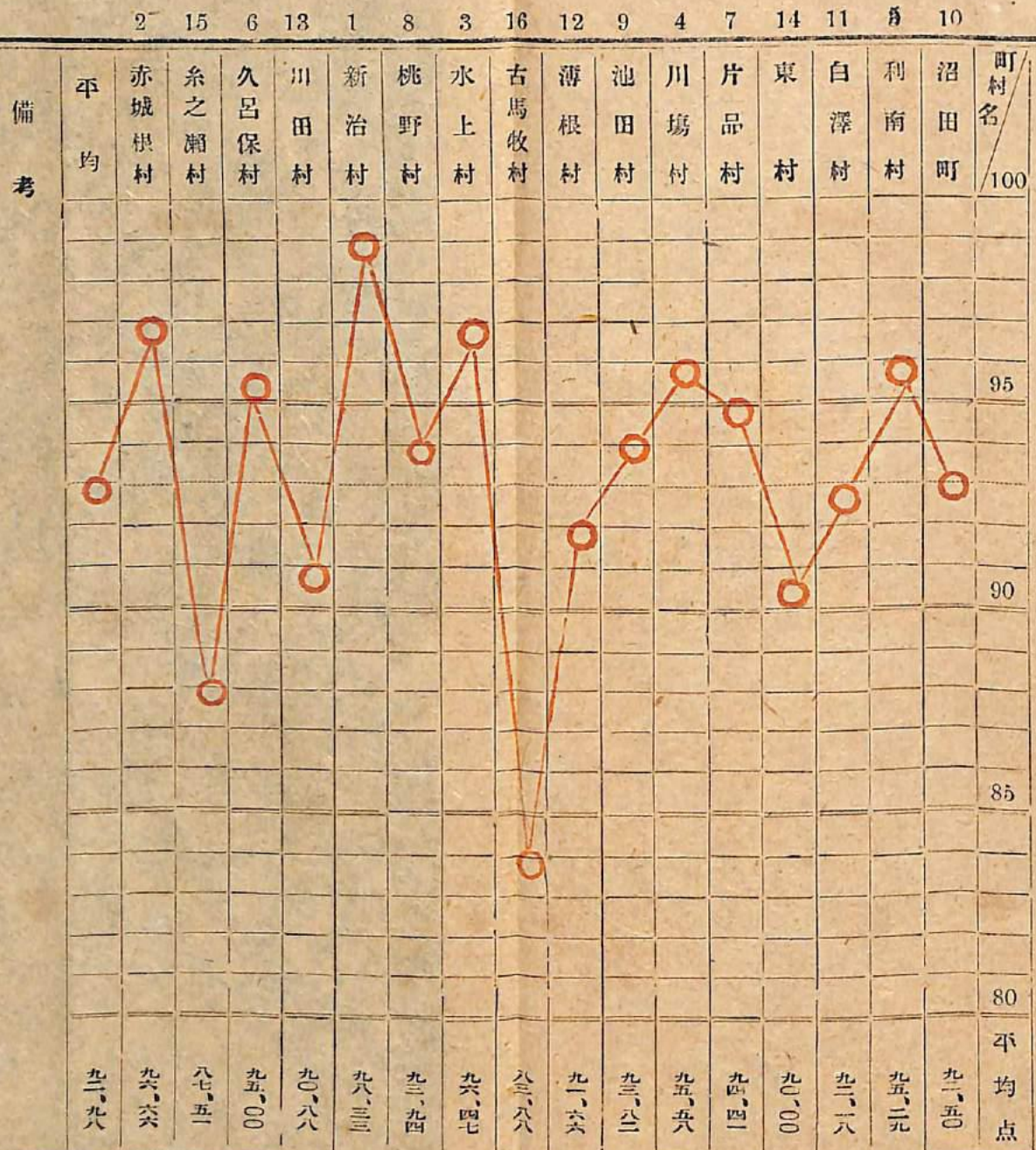
- 一、出生届 生後十四日以内
 - 一、寄留届 居所住所退去復歸共十日以内
 - 一、死亡届 七日以内
 - 一、家督相續届 三十日以内
- 其他印鑑改印養子縁組養子離縁婚姻分家離婚私生子認知轉籍届等は既定日限はなけれども成るべく早く届出をなすべし

○五大國人口と陸軍力

國名	人口	常備陸軍 兵員數	全土人口千ニ 對スル比例
日本	六七、九七〇千人	約二四〇、〇〇〇	三、五三
露國	一六三、〇〇〇	一、三八四、〇〇〇	八、四九
獨逸	六三、〇一七	六二五、〇〇〇	九、九一
佛國	三九、二五〇	五八六、一七四	一四、九三
奧國	五二、二〇〇	三六九、六六九	七、二二

(二月二十九日)

大正五年八月中完結ノ有期報告遲速成績表



論説欄

~~~~~

◎まつりのことを (續々)

神奴 植葉幸十郎

祭まつり。 政まつりこと。 國語に相一致して居る

まつる まつりこと まつりこと等の

祭 政 應又政殿

まつりことひと

判官「省にては丞」「受領にて様」郡にては主政

をまつりことひと

をまつりことのかた

まつらふ

まつりや

歸順

廟

國語已に祭と政とを同ふし又實行上にては祭政一致の由來又少しとせす

天皇親ら祭祀の要旨を諭したまひ神祇官を以て諸官の上にをかれ歷代敬神の敬慮を畏み奉るこれ即ち祭祀を以て國家の大典爲政の基本とせらるゝものにして天祖以來神事を先にし他事を後にして異變あることなきは神國の神國たる所以なり臣民たるものよろしく眷々服膺して祭祀の重要たるを確守せざるへからざるなり

太古神武天皇欲入中洲時長髓彦聞之曰夫天子等所來者必將奪我國則盡起兵

徵之於孔舍衛坂與之會戰有流失

中五淵命眩脛

皇師不能進戰

天皇憂之乃運神策於沖杵曰今

我是日神子孫而向日征虜此逆天道也不若退還示弱禮祭神祇云々

宇麻志麻治命誅長髓彦師軍歸順天皇嘉忠節授以節靈劍天皇及即皇位宇麻志麻治命獻天瑞寶

又堅神楯以齋矣云々

道路絕塞無處可通天皇惡之是夜自祈而寢夢有天神謂之曰宜取天香山社中土以造天平瓮八十枚並

造嚴瓮而敬祭天神地祇云々

天皇大喜乃拔取丹生川上之五百箇真坂樹以祭諸神自此始有嚴瓮之置也時勅道臣命今以高皇產

靈尊朕親作顯齋用汝爲齋主云々

詔曰我皇祖之靈也自天降鑒光助朕躬今諸虜已平海內無事可以郊祀天神用申大孝者也乃立靈祠於

鳥見山中祭皇祖天神云々

以上は日本紀に記しある神武天皇の敬神崇祖の御事蹟にして實に紅涙袖をしぼるほど恐れ奉り畏み

奉るべきことにこそ

さればまつりに従事せる祭員一同及其座に列するものは極めて嚴肅に一心不乱に禮の欠けざるやうに注意すべきなり青戸先生の教範に禁忌事項を詳解せらるゝも宜なりとす

然るにこの頃の祭員のありさまを見るに甚だ面目からぬ事の多きは實に遺憾なり今其例をあぐるは

甚だ不本意なれと言はされは腹ふくるゝとやら敢て一言をものせんに最も謹嚴に行ふべき齋場に於て

「あくび」「あくら」「ぬねむり」「しびれにてこける」「わらう」者ありこれ等は式場よりこれを退く

るかよい祇園祭は普通盛暑中なれば倦怠の起る時なれども自己と神座を同じうして居るか如きは言語

道斷であるから神職や教導職はかゝるものに祭場に居られては神様の御機嫌か如何なるかを思ひ實に

恐惶に堪へぬのである

故に今後式場に列したる人は神職教導職は勿論一般の方々には最も嚴肅の態度を持し誠意を表すべきである

試みに青戸波江先生の祭式教範に列記せられたる祭祀重要事項及禁戒事項を擧ぐれば左の如し

○祭祀重要事項

- 一、清潔 二、至誠 三、謹慎 四、嚴正 五、鄭重 六、忍耐  
七、機智 八、注意 九、察知 十、豫定 十一、剛健 十二、閑雅

○禁戒事項

- 一、不潔 二、輕忽 三、放心 四、不注意 五、不規律 六、粗暴  
七、卑屈

(終り)

○肺結核の話に就て一言す

東 城 生

諺に曰く、己惚れとかさ氣のないものはないと余も又言はんと欲す、全國を通して逐年肺病患者増加の傾向あり特に利根郡に於ては己惚れと肺病氣のない者は鮮少なりと然り余は本部にあり職に衛生事務に當り試みに町村の報告に基き本年三月より八月迄六ヶ月間死亡統計をなすに死亡者總數二百二十四名内肺病のために死亡したるもの實に百十三名豈驚くべきにあらずや。即ち斯病を驅除し郡民各位の健康を保維し國力の發展を計り度窪田國手に別項肺結核の話を請ひ御參考迄に登載したるなり

◎通俗衛生 肺結核の話

千葉醫學專門學校 醫學士 窪田由紀衛

肺結核は恐ろしい病氣!! 誰方も皆知つて居ることである。試みに諸君が若しも其の親戚朋友知人の死んだ人々に就いて考へて見たならば、誰も肺結核で死んだ、彼も肺結核で死んだと、此の病氣で

死んだ者が澤山あるであらう。殊に若い人達の間には肺病で死んだ者が多い。例へば神童秀才と呼ばれて郷黨から將來を注目された有爲の人物が、未だ功就らぬにあたら青春の夢短く稍離るゝ花と共に散り失せた、その原因は何か、肺結核！或は又何々小町と其の名を近郷に唄はれた何長者の一人娘が、ふとした風邪に打ち臥した儘枕もあがらず、行く秋の風冷たき夕暮小萩に零るゝ白露のあはれ果敢なく消え失せたがそれも何病、肺結核！と、斯様ないたましい出来事が世間に如何程有るか知れない。肺結核が生み出した悲劇は、一つの「不如歸」や一つの「寄生木」ばかりでなく、幾百幾千の浪子や良平が此の世に泣いて居る。實に肺結核は廣く世界各國に蔓延して居る病氣で、人類の全死亡数の七分の一は肺結核の爲めであると言ふ。日本には結核で死亡する者が年々八萬人以上有り、現に肺結核に悩んで居る者は數十万人有ると言ふことである。殊に血氣盛なる十五歳から三十歳迄の時代の者に本病は多く、此の年頃の者の総死亡数の三分の一は肺結核に因ると言ふが、更に驚くべきは全國の壯丁中より撰びに撰んで強壯者を集めた陸海軍の兵士に於ても、其の病死者の五分の一は肺結核であると言ふ、如何に驚くべき事ではないか。

而して此の恐るべき肺結核は年々歳々増加する傾きがあるので、本病を豫防撲滅するために結核豫防會なる者が各所に設立せられて種々の方法手段に依つて、結核の危險なる事を衆人に説明し、又其の傳染に對する豫防法等を教へ、或は特に結核患者のみを收容する結核療養所の如きものを設けて同病患者を健康者から隔離し、以て其の傳播蔓延の防がんとする等幾多の計劃が行はれて居る。

#### ▲肺結核の原因は何か

種々の傳染病の原因は大概細菌・黴菌と稱する有機體である。例へばペスト病の原因はペスト菌と稱する細菌、コレラ病の原因はコレラ菌と稱する細菌、赤痢病の原因は赤痢菌と稱する細菌である。肺結核の原因も同様に細菌であつて、今から三十年計り前にコッホ博士の發見した結核菌である。

此の結核菌は肺結核患者の痰の中には非常に澤山居るもので、肺結核患者の吐き出す一塊の痰の中には實に三億万個の肺結核菌が居ると言ふことである。其れ故若しも假りに結核患者が一時間に一回づゝ痰をするものとして見ても、一晝夜には二十四回て、其の内に在る結核菌の数は七十二億万個になる、然し實際は一時間に一回位の痰ではないから、肺結核患者の吐き出す結核菌の数は如何程多數であるか到底數字等には表はせない。

此の結核菌が如何なる路を経て人間の體内に侵入して病氣を起すかは後に述べるが、結核菌の生活力即ち結核菌の生命は如何程位長いかと言ふに、此は豫防上甚だ必要の事であるが、學者の研究に依ると、痰の内の結核菌は乾燥した場所に置ても大概三ヶ月位は生きて居る。若し又日光の當らない面して濕氣の有る所に置いたならば一年間位は死なないと言ふ事である。又痰が水の中に有る時は水中に居る種々の細菌例へば腐敗菌の如きものゝ繁殖のために結核菌は競争に負けて一ヶ月か一ヶ月半で

死滅する。地中に菌を埋めて置いたのでは三ヶ月位は生きて居るそうである。熱に對しては如何と言ふに、牛乳中の結核菌は攝氏七十度に熱すると十分間、九十五度に熱すると一分間で死滅する。痰の中に在る結核菌は八十度に熱して五分間、九十度ならば二分間で死滅する。熱と反對に寒冷に對しては結核菌は抵抗力が強い、攝氏零下十度の寒さに在つても、六週間以上生活する事が出来ると言ふ事である。日光に對しては極めて抵抗力は弱くて、直射光線にては五六時間分散光線にては一週間位で死滅して終ふ。消毒薬では二十倍石炭酸で三十秒、千倍昇汞水で十分間で殺菌することが出来る。斯様に結核菌は抵抗力が強く、種々の障害に對して容易に死なない故、吾々の周圍に存在する期間が長いために、從つて傳染の危険が多いものである。

#### ▲肺結核は傳染する。

肺結核の原因は前に述べた結核菌であつて此の結核菌は肺に附いたのか肺結核である。どう言ふ經路を経て結核菌が肺に入るかと言ふに、最も傳染の機會の多いのは結核菌が空氣と共に吸入されて肺に附着するのである。肺結核患者が痰を吐くと、此の痰が地上に落ちたにせよ床の上に落ちたにせよ濕つて居る間は結核菌は空氣中に舞ひ上ることは決して無いが、何時か乾燥すると細い粉末となつて之が風に吹かれるとか、帚で掃かれるとか、下駄で踏み散らされるとか、車馬で通るとか言ふ場合に塵埃と共に空氣中に飛散するが、斯様にして微菌の混じた不潔の空氣を若しも人が吸入するならば、

之が肺に入つて肺結核になるのである。尙危險なのは痰ばかりで無く、肺結核患者が咳嗽をする時、噴嚏をする時或は高聲を發する時等には、結核菌を含む無數の細い水滴が患者の口から飛び出る故に傍に居る人か此を吸ひ込むと矢張り肺結核になる。

斯様に空氣で傳染するが、結核患者の住居して居る附近の空中には常に結核菌が飛散して居るかと言ふに、一塊の痰の内にさへ三億萬の微菌が居る故、其微菌が飛散して空中には結核菌が充滿して居る様に一寸考へられるが、實際は決して左様で無い。結核菌は日光に對して抵抗力の弱いものであるから、空中に浮動する者などば日光のために易く死滅して終ふ、其れ故外氣中で結核菌を吸入して傳染する場合は絶無と言つて良い。萬一結核菌が外氣の中に常に浮動して居るならば、誰も彼も皆感染して到底豫防などか出来るものではない危険なのは患者の住居する屋内の空氣である。

肺結核患者の痰及咳嗽噴嚏談話等の際に飛散する水沫は危險であるが、肺結核患者が普通呼吸する時に吐き出す空氣は世人が恐れて居る程危険では無い。其の理由は呼吸器の内面は総て濕つた粘膜で被はれて居る故、此の粘膜に附着して居る微菌が吐き出す空氣に混つて出て来る事は無いからである。此の事は多數の學者が試験して証明して居る。

又、患者の使用した衣服、夜具、蒲團、手拭、煙草盆等に結核菌が附着して居つて、此から傳染することがある。

結核菌が肺に侵入すると肺結核が起すが、結核菌は尚骨、關節、腸、腹膜、腦其他一般臓器をも冒して結核性の病氣を起すものである。

#### ▲肺結核に罹り易い人

肺結核の原因は結核菌であつて、此の結核菌を肺に吸入すると肺結核になる。而して斯様な場合に遭遇した人は必ず総てか病氣になるかと言ふに左様では無い。多數の人は結核に罹ることを免るゝものである。其は結核菌の發育繁殖が彼の急性傳染病たるコレラ菌やチブス菌に比して極めて緩慢であるために、結核菌は一度身體内に侵入しても、長く身體内に留つて居らずに多くは再び排泄されるからである。然し常に病毒に接近するとか、或は身體が虛弱であるとか、其他結核菌の發育に都合の良い條件が存在すると結核病が發生するのである。其發生に關係ある事柄は次の如き者で、斯様な條件を有する人は即ち肺結核に罹り易い人である。

(一)、體質の虛弱な者は肺結核に罹り易い。胸が長く、胸が扁平で、肩胛骨の間が廣かつて居り、首頸が細長くて、皮膚は蒼白色をなして瘦せて居る様な體格を有つた者は、昔から癆瘵質と言つて肺病に罹り易い者と認められて居る。反對に體格の強壯なよく肥つた者は結核に對して抵抗力が強い。「癆瘵はおたふくの病むものでなし」など川柳子も唄つて居る。

(二)、年齢も亦結核の感染に對して關係が有つて、十五歳乃至三十歳時代の者が最も之に罹る事が

多い。勿論小兒にも老人にも肺結核患者を見るけれども、人生の花とも言ふべき十五歳乃至三十歳代の者が本病に侵される事が多い。

(三)、非衛生的な生活をする者は肺結核に罹り易い。新鮮なる空氣と、充分なる日光と、滋養に富む食物と、適當なる運動及休息とは吾人の健康に最も必要な條件である。此等の條件から遠ざかつて、終日閉ぢ切つた室内に在つて空氣の流通の悪い所に働く者、或は工場等の塵埃の多い空氣を常に呼吸する者は肺結核に罹り易い。又日光の射入が不十分な家屋に住する者も本病に罹り易い。「日光の入らぬ家へは醫者か入る」と言ふ諺があるが、日光が健康上に偉大なる影響の有る事は、日常りに生えた草木と日蔭に生えた草木とは發育に著しい相違のあるのを見ても明である。而して又一方に於て薄暗い所では一年以上も生きて居る結核菌が、日光に當ると五六時間て死滅する故に、傳染の危険も日當りの良い場所に於ては少いわけである。

又滋養に乏しい食物や、滋養には富んで居ても食する量が少ない時は身體は虛弱になり傳染素因は多くなる。尚運動の不足の者は自然食が少く體が弱く、運動活潑の者に比すれば本病に罹り易い。

概して室内にのみ居る者は室外で作業する者よりも肺結核に罹り易いのである、即ち農夫の如き常に外氣の中に日光を浴びて勞働する者には肺結核患者は少いが、屋内にばかり籠つて居る者殊に精神を過勞する様な仕事をする者は、新鮮な空氣も吸はず、日光にも觸れず、運動不足で食は進まず、從

つて身體諸機關の機能が鈍くなつて、病氣に對する抵抗力が弱く、一度結核菌の侵入に會へば容易に微菌が發育繁殖して病氣を發するのである。室内で精神的作業にのみ耽る詩人小説家などには肺結核で死んだ人が多い。高山樗牛、二葉亭四迷、齋藤綠雨、平尾不孤、網島梁川、正岡子規、國木田獨步、樋口一葉、瀬沼夏葉、中島湘煙等明治時代の有名な文士は皆肺結核で死んで居る。

(四) 身體を衰弱せしめる種々の原因は肺結核に感染する素因を作るものである。例へば貧血、心臟病、糖尿病、マラリア、妊娠、産褥、梅毒、淋病、酒精中毒、精神病、貧困、憂鬱、外傷等は身體の抵抗力を弱めるから肺結核に罹り易くなる。

又麻疹、百日咳、インフルエンザ、氣管支加答兒、肺炎、肋膜炎等の如きば呼吸器粘膜に加答兒を起して肺に抵抗力の減弱を生ずる故結核感染を易からしむる者である。

#### ▲肺結核は遺傳はしない。

肺結核は遺傳する者と昔から信じられて居るが、肺結核は傳染する病氣であつて決して遺傳する病氣では無い。親が肺結核に罹ると其子が又病むものが多い所から、血統を引いて遺傳するものと考えられたのは無理もないが、此は結核の原因が不明であつた時代の考へで今日も尙肺結核は遺傳するものと思つて居る人々が多いけれども、其は誤つた考へである。

肺結核は前に述べた如く結核菌に依つて起るものである故に、若しも肺結核が遺傳するものである

ならば、肺結核が肺結核の父又は母から其子に傳はらねばならぬわけである。父母から胎兒に結核菌の移り行く途は如何と言ふに、第一は精虫の中に結核菌が含まれて居つて之が授胎するか、第二は結核菌を含んで居る卵が受精するか、第三は胎兒が母から結核菌を受けるか、此の三途である。第一第二の結核菌を有する精虫及び卵と言ふ者は多數の學者の研究に依れば無いと言ふ事である。よし萬一有つた所が左様な精虫や卵の合體した者は發育成長を遂げないと言ふことである。第三の場合は胎盤から胎兒に行く血液を傳つて結核菌が胎兒に移るのであるが、之は母が高度の全身結核に罹つて居る時か又は胎盤其の物が結核になつた場合である。けれども母が全身結核に罹つて居り、或は胎盤が結核性變化を起して居る様な時には、胎兒は多くは流産に終つて、完全に發育して生れる事は殆んど無い。若し生れても直ちに死亡して終ふものである。

それならば此處に或る家族が有つて、親が肺結核で死に、其の子も總て肺結核で死んで血族が皆肺結核で死に絶えた實例がある。此は明に肺結核が遺傳することを證明して居るては無いかと言ふ疑問を起す人が有るかも知れない。實際を言ふ例が世間にいくらも有ることである。然し之は怪しむに足りない事である。即ち結核が遺傳したのは無くて、長く同一屋内に起臥を共にし、親の身邊に接近する機會が多かつた爲めに、結核が何時の間にか傳染したのである。其れ故若しも親が肺結核に罹つた場合に、其の子に移るのを防ぐには親の元を遠ざからしめなくてはならぬ。

然し此に注意しなくてはならぬ事がある。親が結核に罹つた場合に生れた子は自然體質が弱い。體質の弱い者は肺結核に侵され易いから、結核傳染に適する素質をもつて生れた者と云はなくてはならぬ。即ち之は結核傳染では無くても弱い體質遺傳である。

此の體質遺傳は親が結核に罹つた時のみに限らない。梅毒でも慢性酒精中毒でも其他の疾病でも同様で病身の親の生れた子は體質の弱い者が多く、傳染素因を持つて居るのである。其故に肺病に罹らぬ子を生まんと思はゞ先づ以て親が其の體を強壯にしなくてはならない。

斯く肺結核は遺傳病では無くても傳染病である故に、若しも諸君の中に肺結核の親を持つた者が有つて必ず肺結核になると言ふことは無いから、決して悲觀失望することは無い。體の弱い者は平常體を強壯にする事を心掛けて、結核に對する抵抗力を養ふやうにするのか何より大切である。

#### ▲肺結核は不治の病では無い。

故國木田獨歩氏が嘗て肺結核で茅ヶ崎の南洲院に入院して居つたことがある。私達か二三の友人と見舞に行つた時に、獨歩氏が、「自分の体より數十倍も大きい象の如き動物をすら自由に驅馳する人間が、千倍の顯微鏡で米粒程にも見えない微菌に取殺されるとはなさない」と笑ひながら言はれたことかあつたが誠になさない事である。然し人間は彼れ微菌の前に今日は手を束ねて徒らに降服しては居らない、科學の照魔鏡は彼の正體を見破り、彼を征伐する方法を發見した。然しなから昔から

信じられて來た肺結核は不治の病氣と言ふ觀念が、今日も尚一般世人の腦髓に浸み込んで居つて、此の病氣に一度罹つたなら最早治らぬ者と思はれて居るが、肺結核は決して不治の病氣では無い、治療をすれば治る病氣である。

「肺結核はラテン語でフチジスと言ふが、フチジスば不知死すに通ず、即ち知らざれば死するにて、知つて治療をすれば治るものである」と言はれた人があるが、全く此の言葉の如くである。

然るに世間多くの肺結核患者に於ては死亡する者が多く、治癒した者は殆んど稀である故に、肺結核は不治症と誤信されて居るが之は肺結核の病症が極めて慢性のものであつて、病氣の初期の微候を除々として現はれて來る故に、初期に於て此を氣付く者少く、病氣が既に甚だしく進行して肺の大部分に蔓延してから初めて醫師の門を訪づる者が多いからであつて、即ち治療の時期を失したから癒らないのである。或は又極めて初期に醫師の診察をうけても、醫師から結核の疑ひある旨を告げられると、患者自ら最早已れは不治の病氣に取付かれたものゝ如く考へ、死の宣告でも受けた氣になつて自棄的に不攝生をするとか、又は病氣が長いために失望悲觀して治療を怠るとか言ふことの爲めに、病氣を却つて悪くして癒らなくなるのである。

肺結核に罹つても早くから醫師の治療を受け、よく忍耐して攝生を守り、平氣な心を以て療養したならば随分治療することか出来るものである。肺結核患者の治癒した例は澤山ある。又身體の強壯な

る者にあつては、その肺が結核に冒されて居たにも係はらず、生きて居る間少しも健康に支障を感じずに居て、偶々他の病氣で死んだ時に解剖した所が、始めて結核に罹つて居たのを認めたと云ふ例が少からずある。彼の千古の大英雄ナポレオン一世は胃癌で死んだが、死後其遺骸を解剖した時に左肺は結核に罹つて居たのを發見したと云ふことである。

#### ▲肺結核の初期

肺結核は初期に治療する事が必要である。前に述べたが、初期の治療と云ふことは單に結核の治療と云ふことに就いて必要なるのみならず、豫防上又甚だ肝要なる事である。其故に肺結核の初期は如何なる様子かと言ふ事を知つて置くと、自分又は家族が病氣の場合に早く氣が付いて、早く手當をするところになるから、従つて病氣の治療も早く、他への傳染も豫防することも出来る。

肺結核の初期は其容態が種々であつて、少しも痛くも苦しくも無いが、何となく氣分が勝れず、食が進まず、夜は熟睡が出来ず、體や精神が倦めて、仕事をしても直ぐ厭やになる。斯様な神経衰弱の如き有様で始まる事がある。

或は又血氣盛なる年頃の者でありながら、食慾が常に進まず、營養が段々衰へて、身體が日増しに羸瘦すると言ふ様な慢性の胃病の如き容態で始まる事がある。

或は氣分も悪くなし、食事も普通と異つた事なく、別に病氣らしい所も無いのに體が漸々瘦せて、

感冒に罹り易くなり、夜は時々盜汗があると云ふ様な事で始まることがある。若い人達の肺結核の初りは斯様なことが多い。

或は又甚だしき原因も無いのに體温の昇ることがある。それも左程高い熱では無く六七分の一程度位で、午後三時から四時頃になると氣分が勝れず、幾分か惡寒などかして、体温器で計つて見ると體温が高い、然し間も無く夜になると體温は下つて氣分は爽やかになるとか、或は朝熱が高くて午後は氣分が良しと言ふ様子で始まることもある。其故原因の不明な發熱がある時は注意しなくてはならぬ。或は又夜床に就いた時とか朝目が醒めた時に咳が出て、其の咳と共に痰の出ることも出ないこともあるが、咳が長く一と月も二た月も續いて出て、其から肺結核になることかある。咳が長く續く様な場合には油斷はならない。

尙時とすると全く之まで体に障害の無つた者が、突然血を咯いて其から段々病氣になる者がある。斯様に種々の状態が始まるが、上記の如き疑ひの有つた場合には捨て置かず、醫師の診察を受けることか必要である。

#### ▲肺結核患者の注意

肺結核は治療をすれば癒る病氣である事は前に述べたが、肺結核は決して一と月や二た月で癒るものではない、極めて慢性の病氣である故に、患者は強き意志と撓まざる忍耐とを以て療養することか

必要である。長い経過の間には、病氣の良い時もあり悪い時もあり、或は熱の出ることも血を咯くこともあるか、決して失望したり煩悶したりしてはいけない。肺結核患者にあつては其の肺に宿れる結核菌と、宿主たる自己の體とか絶えず生存競争を營んで居るのであるから、結核菌の勢盛になれば患者は倒れ、患者の身体強壯になれば結核菌は衰滅して病氣が癒るのである。其れ故患者は大なる努力奮闘を以て自己の体力を旺盛ならしめ、結核菌を征服しなければならぬ。

患者は先づ信用する所の醫師の治療を受けるか宜い。世間には肺結核は藥が効かぬから醫師にかゝても無益だなど、言ふ人があるかも知れぬが、實際今日結核治療には彼の梅毒を治療する注射藥の如く迅速に効を奏する方法は遺憾なから無いが、然し治療は肺結核に効無しなど、言ふ者かあらは其は無智の人間である。又「藥物不用食餌療法」など、言ふ事を唱へて居る人もあるか、此等も直ちに賛成は出来ない、却つて患者を誤らせる事があるであらう、寧ろ「藥物併用食餌療法」の一方が完全である。何となれば肺結核は長い病氣であつて、其間に或は咳嗽が烈しく出るとか、發熱するとか食が進まぬとか、夜睡れぬとか、血を咯くとか、種々の障害が起るものであるが、此等の障害を治療に依つて除き又は少くし、或は肺結核に對する身体の抵抗力を助成するに藥品の力を藉る等、治療を促進する方法を講ずることは必要である。勿論肺結核患者の治療した幾多の實驗例の中には、全く醫藥の御蔭を蒙らずに、或は菜食を實行して治つたとか、或は禪に没頭して治つたとか、或は高山生活で治つたとか

或は靜坐法に依つて治つたとか、或は謠曲に凝つて治つたとか、或は宗教に入つて治つたとか、其他何々と種々の人々がある。私も亦此等の事柄に依つて肺結核の治つた事は總て事實であると信ずる然し其だからとて今日科學か吾人に恵んで呉れた醫藥の力を排斥するのは愚の至りである。然り而して又此と反對に、只醫藥にのみ依頼して他を顧みない患者と、科學的治療にのみ重きを置いて精神的方面を閉却する醫師とは、共に大に誤つて居る者と言はなくてはならぬ。

醫藥と共に必要なのは食餌療法である。肺結核患者は其羸瘦を防ぎ、且つ營養を盛にして結核菌に打ち勝つ体力を得るために、努めて滋養品を攝取する事が肝心である。而して其食物は特に何々と撰む必要はない。滋養の澤山有るもので自己の好む物なら何を食しても宜しい。必ずしも肉でなければならぬとか、牛乳でなければならぬとか言ふ事は無い、自己の財力の許す程度に於て、富める者は如何なる珍味佳肴をも求むへし、貧しき者は決して高價を費して美食を購ふを要しない。例へば豆、豆腐、油揚げ、湯葉の如きものは肉類と同性質の滋養を有つて居る。豆腐一個は牛肉五十匁と、或は鶏肉四十匁と或は牛乳一合五匁と、或は鶏卵二個と殆んど匹敵する滋養分を有つて居る、勿論豆腐を食つたのでは牛肉を味つた時の様な舌鼓みは打てないが、高價の食品のみか澤山の滋養分を含んで居る譯では無さ。

醫藥食餌と共に尚必要なものは新鮮なる空氣及び光線である。患者は成るべく日當りの良い室に起

臥し、室内の空氣の流通をよくする事が必要である。而して常に室内にのみ閉ぢ籠つて居らずに、氣分の好い時には、天氣が穩かであつたならば外氣の中を適度に逍遙する事も必要である。

以上の外更に必要なのは精神療法である。肺結核に罹つたと聞く患者は何れも驚愕落膽する者であるが、其は無理の無いことである。華やかなる未來の生涯に憧憬する者、或は青雲の望を抱く者、若しくは然らざる者にしても、世人の忌み厭ふ難治の病氣に罹つたと聞いたならば、誰か驚かすに居られやう、誰か落膽せずに居られやう、然しなから其處に考へなくてはならぬことである。「汝等如何に思ひ煩ふとも其の命を寸陰も延べ得んや」徒らなる驚愕落膽は病症を増進せしむることこそあれ少しも輕くはなさない、故に肺結核患者は覺悟して、たゞ一心に自己の疾病は必ず治癒する者なりと言ふ信念を以て、例へ病氣は如何に長くとも失望悲觀せずに、忍耐して療養しなくてはならぬ。前に述べた禪や靜坐法や謠曲や其他の方法で肺結核が治つたと言ふのは、其等の人々か其の好む所に没頭して、病氣に對して虛心平氣で養生したからである。彼の綱島梁川氏の如きは、肺結核に罹つて大咯血をなし重態に陥つたけれども輕快して、其から十數年間生きて居つたが、其は唯だ一つに信仰の力に依つてゐると言ふ。精神療法が肺結核に對して著大の効果を來たす事の有るのは確かである。

其他肺結核患者は、讀書遊戲娛樂等も身体精神の疲勞せぬ程度ならば差支へは無いが、度を過してはいけない。深呼吸や冷水摩擦や其他の運動は醫師の指揮を受けてするのが安全である。

肺結核患者は其の痰を無暗に吐き散らしたり、手拭やハンケチなどで拭いて其儘にして置いてはいけない。そうすると他人に傳染する危険があるばかりでなく、自己も又其黴菌を吸入して肺の健康なる部分へ更に新しく病竈を作ることがある。即ち自家再感染を起す事がある。其故痰は一定の痰壺へ吐き出して消毒した上で捨てるやうにすべきである。痰を消毒するには二十倍石炭酸水を用ゆるかよる。

又肺結核患者は其の痰を嘔み込んではいけない。結核菌が腸へ行つて繁殖すると腸結核と言ふ病氣を起す、若しも誤つて痰を嘔み込んだ時には、直ちに少量の食物を食するか宜い、そうすると食物と共に黴菌が胃の消化作用に會ふから、幾分か其の害を少くすることが出来る。

秋光清涼の候各位益々御多祥奉慶賀候陳者私儀編輯人  
拜命以來茲に滿二年一ヶ月間非常なる御愛顧を蒙り候  
處今般京都府へ出向を命せられ候に就ては將來公私共  
不相變御垂情の程奉祈候郡報の余白を藉り一言御挨拶  
申上度如斯候 敬具

大正五年十月 日

元郡報編輯人

利根郡書記 東 城 政 治

大正五年十月廿七日 發行

〔非賣品〕

發行人 利根郡長 野中富三郎

編輯人 利根郡書記 中村角治  
東 城 政 治

印刷人 須田久吉

群馬縣利根郡沼田町五百五拾七番地

印刷所 全所 啓文社

發行所

群馬縣利根郡役所